

新年あけまして おめでとうございます

経済の停滞で30年もの間賃金が上がらないという状況のなか、コロナ禍は4年目に入り、政治は軍事力強化と増税・国債増発や原発回帰など、今後の日本の行方を大きく左右する問題を十分な議論もないまま進めようとしています。

そして、独裁的指導者によって引き起こされたウクライナ国民の続く苦しみと悲しみ、世界各国の食料とエネルギーの不足と混乱。

平穏な1年であることを祈るばかりです。今年もどうぞよろしく願いいたします。

用した整備手法について尋ねました。町長からは「葉山に縁のある企業や大学とコラボレーションの議論をしているが、いずれもソフト面での動きだ。資金の問題もあるが、葉山は場所の確保が難しい。また、人口の少ない当町では採算の問題も考えねばならない。アイデアや、企業があれば、前向きに検討したい」という答弁がありました。

町長が“何としても実現する”という溢れるばかりの気迫と熱意をもって当たれば、道は必ず開けます。待っていてもだめです。強い思いこそが人を動かします。

健康づくり対策について

町では、貯筋運動や葉山体操、健康散歩道の作成配布などいろいろな取り組みをしていますが、今ひとつ、町民の健康づくり運動としての盛り上がりには欠けるのではないかと感じていました。対策を体系化して打ち出したらどうかと質問しました。

町長の答弁は「自治会町内会の回覧板の利用や、健康特集など広報の工夫、関連事業との連携など検討したい」ということでした。

防災施設機能を併設した町民体育館とプールがあれば、健康づくりと防災の拠点として大きな力を発揮するでしょう。

令和4年第4回定例会で行った一般質問の報告です

持続可能な葉山の町づくりのために

少子高齢化時代を迎え、活気のある葉山のまちづくりを実現するには、現役で働く子育て世代の皆さんに葉山に住んでもらうことが必要です。そのためには、葉山が教育を大事にしている町であることを打ち出すことが大事だと考えています。

葉山の教育の状況について尋ねたところ、教育長から「葉山にはもともといい教育ができる地盤が存在していて、先生方も一生懸命取り組んでいる。中学校では全国平均より大分高い成績を出している。小中一貫教育の検討の中で、町内小中学校6校全ての先生たちと『はやま科』という総合的な学習の議論を進めている」という答弁がありました。町内6校の先生方が葉山らしい良い教育を目指して頑張っているということです。応援し見守りたいと思います。

既存公共施設の維持・更新整備と新たな施設の整備について

町民体育館やプールをつくって欲しいという町民の声があります。従来から町長は、老朽化した公共施設の維持・更新整備をどうするかを先ず見極めた上で、新しい公共施設の整備を検討すると言ってきました。それに対して私は、先ず必要な公共施設を新設する方針を立てた上で既存の公共施設の更新整備を検討するという進め方にしないと、新しい施設はできないと質問しました。

町長からは「既存の公共施設の利用者や地域の人たちの思いにも向き合わなければならぬ。先ず、基礎固めをやらせていただきたい」という従来どおりの答弁でした。

財政規模の小さい葉山町が、財源確保の難しい時代に自前で新しい公共施設を整備するのは難しい。PFIという民間の力を活用

昨年暮れ、冬休みに入った孫を連れて葉山公園に行きました。目の前には穏やかな海と砂浜が、明るい陽を浴びて広がっていました。そして、青い海の向こうには富士山、箱根の山々と愛鷹山が、その右手には丹沢山塊、富士山の左手には伊豆半島と天城連峰、さらに左手には伊豆大島が青みを帯びて見えました。平日ということもあって、遠くあちこちに人影が見えるだけで、静寂そのものでした。

「ああ、これが葉山なんだな」と改めて葉山の景観と佇まいの素晴らしさ、代えがたい価値を感じました。

12月の第4回定例会で堀内のマンション建設反対の陳情審査、12月24日には下山口白石地区のマンション建設の説明会に参加しました。

土地・家屋の財産価値は当然守られなければなりません。そのために関係法令も整備されています。これらマンション建設問題で問われているのは、保有する

財産によって享受している平穏で快適な生活と、保有者が売却または新たな利用をしようとする場合の便益と、土地を利用してマンション建設をする事業者の利益のどれをどのように守るかです。

葉山のまちと景観が気に入って住み続けたいと思っている町民の生活を、収益が目的の事業者が突然やってきて損ねてしまう。その前から快適で平穏な生活を送っている人たちの権益を守る論理立てはできないものか、改めて考えさせられています。



● 小磯の鼻から富士山・江の島を望む

Kazuo's Hyotan Column

レジリエンスの強靱化の視点で私たちの生活と町を考える

レジリエンスとは

私がこの言葉に最初に出会ったのは、数年前にネットで、土木学会のレジリエンス委員会が「『国難』をもたらす巨大災害対策についての技術検討報告書」を取りまとめ、その公表に際しての土木学会会長のインタビュー記事を見つけたときでした。そのとき受けた衝撃は今でも忘れられません。

会長はこう述べています。「今のままで巨大災害が起きたら想像もつかないようなことになる。日本が東アジアにおける小国、最貧国のひとつになりかねないと考えている」

「レジリエンス」(resilience)は、一般的に「復元力、回復力、弾力」などと訳される言葉で、最近では社会のあらゆるレベルにおいて備えておくべきリスク対応能力・危機管理能力としても使われているようです。

国は私たちの生活を守ってくれるのだろうか？ 一国を当てにするリスク

日本の経済は、安倍政権下ですっかり国際競争力を失いました。GDPでは世界第三位ですが、一人当たりGDPは27位です。韓国や台湾より日本が上回っているという統計がある一方、既に韓国に抜かれ、台湾に抜かれるのも時間の問題と言っている人もいます。この30年の間に賃金を1.5倍くらいにした国があるのに日本は横ばいで、増えていません。

財政も国債の残高が1千兆円を超え、1%利上げをすると国の負担が10兆円増えるため利上げもできず、財政は危機的な状態にあります。そんななか、岸田総理は突然、防衛費をGDPの2%に引き上げる、5

年間で43兆円を防衛費につぎ込んで敵基地攻撃ができることにすると言い出しました。増税と国債で財源を確保するしかありません。

円安が心配です。日本の国は危ないと海外の投資家から判断されたら、一気に円安が進みます。原油も食料も必要な量を買えなくなります。食糧の自給率は38%、エネルギーの自給率は11%にすぎません。これで、南海トラフ地震が起きたら、日本はアジアの貧国に転落します。私たち自身、そして自治体が少しでもレジリエンスを高める工夫をして備える必要があります。

さらに、私たちの生活と経済の見直しと再構築を求めている、今や待ったなしの地球環境問題にも対応しなければなりません。

では、私たちや自治体に何ができるか？

いろいろ考えましたが、結論的に言えばやれることは極めて限られていると言わざるを得ません。身も蓋もない言い方をすれば、逆境に負けない強靱な心と体力をつけておくしかないのかも知れません。

そうは言っても、やれることはあるはず。まず何よりも、生きるのに必要な食料を生産する農漁業の力をつけることです。食糧の自給率を上げる政策を強化することです。葉山にも休耕地があります。難しい問題で町でも努力されていますが、土地所有者と利用者の良いマッチングができればと思います。万一の時に少しでも物資を確保し復旧にあたって必要な技術を提供できる商工業者の皆さんを日頃

から応援し守ることも大事です。少しでも地域で回る経済の構築です。

もう一つは、地域の支え合う力を育てることです。自治会町内会の活動や、社会福祉協議会が中心になって字(あざ)ごとに進めている「小地域福祉活動」推進の組織づくり、災害時における避難行動要支援者への取り組みを、町が支援しながら強化することが大事です。これは、生き抜く力、心のレジリエンスを強めることにつながります。

国の新年度予算と金融政策に注目しましょう

私は、物事を悲観的に見る傾向が強く、最悪の場合を想定しすぎるタイプと自覚しています。でも逆境に陥ったときには、必ず対抗する力、救う力も生まれるものです。国民、町民のしなやかなで強靱な力を信じ、期待したいと思います。

まずは、社会保障費と防衛費と財源にかかる新年度予算の議論と、円安とその先の食料・エネルギー不安に直結する金融政策の行方に注目しましょう。

そして、日本の未来にとって何よりも大事なものは、どの子も希望する教育が受けられ、国民が必要な研究に打ち込める環境を整えることです。

このことなくして、日本の復活はないと考えています。



消防出初式に出席して思ったこと

1月8日に葉山小学校で消防出初式がありました。黒い制服に身を包んだ消防団員の皆さんのキビキビした動きを見ながら、頼もしくそしてありがたく思いました。町のレジリエンスの強靱化に一役買ってくれています。自治会活動に関わりながら、地域に若い人の組織があればいいなと思っていました。消防団員募集の看板を目にします。地域の安全を支える消防団活動を通して地域の若い人たちのつながりの輪を広げることにはできないか。仕事の関係で難しいかもしれませんが、地域に仲間をもつことは大きな力になります。

出初式には、女性防火防災クラブ員の皆さんも参加されていました。男女に関わりなく、地域に仲間を増やそう！ 老爺心ながらひとこと…。



中村和雄 プロフィール

葉山町議会議員 1942年生まれ 横浜国大経卒
 【元】横浜市理事／横浜市福祉サービス協会専務理事／葉山町町内会連合会長／葉桜自治会長
 【現】社会福祉法人であいの会理事長／葉桜自治会会計担当

連絡先：〒240-0113 葉山町長柄1617-12
 TEL/FAX 046-875-6925
 Email: 170202kn@ozzio.jp
 URL: https://www.nakamurakazuo.com/

